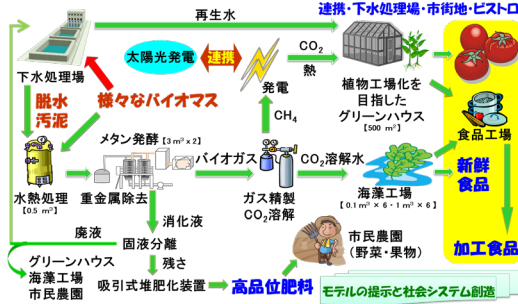


1. 地域連携の好事例

豊川バイオマスパーク構想@下水処理場

文部科学省 先進的創造科学技術開発補助金「バイオマス・CO₂・熱有効利用拠点の構築」(1129-27946)



経済性を重視した中小養豚農家における 小規模普及型バイオガス発電システム



◆産学官・広域連携（愛知県と近隣5市）による 下水処理場のバイオマスパーク構想

脱炭素社会における下水処理場のプレゼンス向上、環境に対する意識改革、環境行政のパラダイムシフトを目指し、実際の下水処理場にて下水汚泥からバイオガス、トマト、海藻、堆肥を生産するバイオマスパークを設置した。これをきっかけの一つとして、下水処理場では、メタン発酵処理施設を再稼働させ、計画用地に大規模植物工場と太陽光パネルを設置した。さらに、他地域にてバイオガス発電の普及、バイオガス発電と植物工場の連携、陸上海藻養殖、吸引式堆肥化装置など社会実装を進めた。

◆産学官による小規模普及型バイオガス発電システムの 社会実装（愛知県）

中小規模の畜産農家、食品工場、下水処理場などへ導入し易いように廉価型バイオガス発電システムを開発し、愛知県を中心に、各自治体と連携し全国に社会実装している。現在、さらに効率を改善し、廉価化を進めたシステム開発に取り組み、さらなるシステムの普及を目指している。これにより脱炭素を目指した自立分散型電源の確保、災害対策としての取組、消化液の活用による化学肥料の使用量削減などを自治体と取り組んでいる。

◆市営太陽光パネルの動作特性解析と高効率化改善（豊橋市）

2. その他特徴的な取り組み

- ◆東三河地域（5市2町1村：74万人強）における広域連携が産学官で構築できている
- ◆愛知県や各自治体との環境分野における連携あり（あいちカーボンニュートラル戦略会議、あいちゼロカーボン推進協議会、愛知環境賞など）
- ◆県道の剪定枝を木質バイオマス発電の燃料化にする試み
- ◆一般廃棄物処理の広域化とバイオガス発電普及促進
- ◆各自治体と地域ゼロカーボンに資する取り組む組織を立ち上げる準備を進めている

3. 地域ゼロカーボンワーキンググループに期待すること、幹事機関・事務局へのリクエスト

- ◆自治体が地域ゼロカーボンを進めるための手順や考え方を学ぶ機会の提供
- ◆他地域でも展開ができる先導的事例集を作成
- ◆自治体を動かす刺激が必要
- ◆創・省エネだけではなく、脱炭素を広く捉えていただきたい。土壌一時炭素固定、火災案件の低減、渋滞緩和策、木造建造物設置数、食品ロス削減量なども考慮をするべき

4. 地域ゼロカーボンワーキンググループへの意気込み・積極的な一言

- ◆脱炭素の取り組みが、地域活性化や人口減少・災害対策などの一環とできるように地域を支援する
- ◆脱炭素イコール創エネだけではない意識改革、時限付き規制改革のきっかけづくりに取り組む